

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091700049		
法人名	社会福祉法人 寿川会		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地	直方市上境1595-1		
自己評価作成日	平成26年5月10日	評価結果確定日	平成26年6月5日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートウリずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	平成26年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな立地環境を活かし管理者が設計から関わり入居者が快適な生活が出来る様にこだわったグループホームです。毎日その人らしく穏やかに、時間に束縛されずに、ゆっくりと暮らしながら、明るい笑顔と明るい笑い声が絶えない施設を職員一同で2年目に向け頑張っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームひまわりは、同法人が運営する高齢者施設横に開所し、施設のデイサービス利用者やクリスマス会や花見、バーベキューを楽しんでいる。理念に沿って、入居者を人生の先輩として敬い、また家族として接することを職員会議等で話し合い、いつまでも元気で生活して欲しいとPTやOTによる身体の動きや食前の発語体操・脳トレなど、生活にリハビリを取り入れた支援が実践されている。また、排尿パターンの把握で膀胱訓練をしたり、洗濯物たたみ等で気をそらし、排尿間隔が長くなり排尿回数が減った入居者や、失禁の羞恥心を十分に理解した声かけ対応が行われるなど、理念の実践が伺える。開所1年目であるが、介護度が重い入居者もあり、整備した看取り介護に関する指針に沿って、看取りを支援する予定で、名称であるひまわりの花のような明るく良い笑顔で暮らせるサービスの提供が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット/
事業所名 **グループホームひまわり**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「利用者・職員はみな家族」「弱者には手を差し伸べる」という理念を掲げその理念をダイニングのひまわりの絵の横で、誰もがみえる場所においている。ひまわりの花のような明るく良い笑顔が利用者様からみられるように日々接している。	管理者は、入居者を人生の先輩として敬い、また家族として接することを職員会議や朝のミーティングで話している。職員は疾患の悪化を防止し、入居者が今の状態を維持できるように、日々支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の組に入りイベントには積極的に参加している。併設の施設を必要に応じ開放し寄合等に利用していただいている。地域の方の避難時の避難所にもしている。	開所早々、地区自治会に加入し、管理者が地域の牛相撲や盆踊り等に参加したり、隣接する高齢者施設の多目的室を開放し、地域との交流に努めている。老人会等の地域からの見学や訪問があり、グループホームの運営について説明している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	身体的機能低下している利用者の社会的参加が難しくなっています。近くの小学校の運動会、文化展に参加行う予定にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では利用状況、活動状況、研修内容を報告し、参加者の方の意見をいただき更なるサービスの向上に生かしている。	2ヶ月毎の会議には、地域代表者や入居者家族、市担当者等が参加し、会議録を整備している。会議では利用状況やヒヤリハット、転倒事例の分析などを報告し、市担当者から転倒等の事故に関するアドバイスを受けてたり、成年後見制度について講師派遣の申し出があった。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当者には、運営推進会議等の機会に取組みの内容や現状を報告し、ご意見をいただき参考にさせていただいている。何か疑問がある時には気楽に相談に乗っていただいている。	管理者は運営上で不明なことがある場合は、担当窓口に出向き、相談したり情報の提供を受けたりしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は施錠は行わずセンサーをつけ出入りには気付くようになっている。裏口側は急な階段があり危険な為昼夜施錠していることは家族にも伝えている。	身体拘束に関する研修会を開催している。夜間止むを得ず複数のベットの柵を使用する場合は、家族に説明して同意を得ている。言葉による「ダメ・待って」がないよう、早朝1人勤務時のダブルコール時は、事情を説明して待っていただくようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全員で虐待防止の研修を行っている。今後も重ねて研修を行い職員同士でお互い話し合い注意しながら虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在利用はありません。成年後見人制度についての必要性がある場合には関連行政に相談し対応できるように考えています。	日常生活自立支援事業や成年後見制度に関する資料を整備している。今後は成年後見制度に関する講師の派遣を市にお願いし、制度の内容について理解を深める予定である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約、改正等の際は説明の上記名、捺印をいただいています。専門用語を控えわかりやすく説明行い、ご家族やご利用者が疑問や不安を話しやすい関係づくりを心がけています。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の訪問された時には、随時、現状報告を行い要望やご意見があれば話し合い改善に努めています。意見箱を置き要望を求めている。	医療機関受診状況や日頃の暮らしぶりは、随時家族に報告して。現在まで家族から特段の意見はない。仕事帰りに訪問する家族もあり、家族の状況を理解しながら、運営推進会議の参加をお願いしたり、クリスマス会等の行事を案内している。壁にはおやつづくりや行事の折の笑顔満載のスナップ写真が掲示されている	毎月の利用料等の送付の折に、各入居者の暮らしぶりや運営推進会議内容等を報告し、家族の理解や協力、意見の表出の促進をお願いします。
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや毎日の申し送りなどで職員の意見を聞き協議し運営に反映させている。	毎月職員会議を開き、率直な意見交換をしている。会議では、業務内容に応じて早出や遅出の勤務時間を変更したり、イベントを盛り上げるアイデアを全職員で検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は労働時間や休みの希望など、出来るだけ応じ働きやすい職場であるように努力している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集には性別、年齢などの条件は付けていない。定年退職後の方でも様々な経験を優遇して採用することもある。働く意欲と高齢者を大切に思ってくれる方を優先している。	職安や求人広告紙で職員を募集しているが、現任職員の口コミで入職する職員が多い。定年後の人材を雇用することも多く、職員の持ち味や経験を活かしたチームケアを実践している。整備している職員休憩室で昼休みを取る体制ではないが、昼食後は職員も寛げる時間にしたいと管理者は話している。介護福祉士等の資格取得を希望する職員もあり、シフトを配慮する予定である。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	サービス事業者としての目的、目標を明確にし管理者は職員も利用者も皆家族であると常に話、自分の家族と思って思いやり理解し尊重する気持ちを忘れないように常に話合っています。	人権や高齢者の尊厳について資料を使って研修し、言葉遣い等日々の対応に気を付けるように注意している。また年間の研修計画を担当制にし、啓発活動に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修会の機会があれば確保し参加している。職員会議で報告を行い職員全員で知識を共有して介護サービスの質の向上に努めていく。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	グループホーム協議会に入会している。同業者の施設に訪問したり、電話連絡で相談など行い情報交換を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴の姿勢を忘れずに耳を傾け本人の思っていることを聞き取り不安を取り除き安心を確保していただく。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者の入居に対しての相談では希望や思いを聞き取り入居後もこまめに生活状況を伝え意向や希望を聞き取るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	個々にニーズを把握し、家族とも話し合いながら、必要なサービスが受けられるように支援している。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩としてご意見をうかがうこともある。本人様の出来ることを見つけ一緒に生活する者同士協力することが出来るように努力している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時間は家族のお仕事の都合もあり夜になることもあるがこだわらず面会に来て頂いている。又、本人様からの訴えはないかご家族に気軽にコミュニケーションが取れるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のデイサービスとの交流を行い友人との関係が途切れ無いうように交流の場を作っている。 ドライブで以前住んでいた町や馴染みの店を見に行く。	友人や地域の方の訪問がある。仕事帰りに立ち寄る家族や、家族と外出して外食する入居者もあり、これまでの関係の継続を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が楽しく過ごせる場を提供したり馴染めない方には職員が積極的にコミュニケーションをはかり孤独感を感じる事の無いように努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入退院等に関しての相談や入院時の洗濯物に対応している。長期療養等で退居された後も、再入居の希望に添うようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の訴えや希望がある際には出来るだけその希望にこたえるように話を聞き、本人、家族の相談を行い検討している。	把握した情報を基本情報やアセスメントシート、嗜好調査シートに記載し、入居者の思いや意向の把握に努めている。全職員が契約書や重要事項説明書を丁寧に説明する体制をつくり、入居者や家族の意向を把握する好機にしている。	整備したアセスメントシートに随時把握した入居者の情報を書き加え、全職員で共有しながら、さらなる意向の把握を期待します。
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報提供等の回覧を行い職員全員が把握できるようにしている。又、申し送り等により得られた情報の共有を図っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日3回のバイタル測定で一人一人の表情や訴えにきづくように心がけている。それを記録しスタッフ全員で共有できるように心がけている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月の会議でカンファレンスを行いモニタリングにつなげ本人、家族との話し合いで介護計画の見直しが必要な場合は行う。	担当者会議を家族の来訪時に開催し、入居者や家族の意向に沿って介護計画を作成している。頻回な排尿コールに対して、気をそらすために編み物や洗濯物たたみをお願いするなどの本人主体の支援が計画され、毎月の定例会議でモニタリングや計画の見直しをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を一人一人毎日記録し申し送りやミーティング等で改善策や提案の意見を出し合い改善に努めている、		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	複合施設併設のグループホームの為母体施設と連携して行事やレクリエーション等を支援している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域役員の方々が運営推進会議に参加していただき、利用者様をみんなで支援している。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の希望を大切に、納得が得られるかかりつけ医と適切な医療を受けられるように支援している。	心身の状況で訪問診療も予定しているが、現在は全入居者がリフレッシュも兼ねて、医療機関を受診している。医療機関と情報交換しながら、日頃の健康管理をしている。治療方針や内服薬等の変更は随時家族に連絡し、記録を整備している。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃より利用者の体調や病気について看護師に相談し、適切なアドバイスを得ている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、施設情報を渡し、主治医や看護師より情報を得て、相談している。退院時に備えて病院のソーシャルワーカーや看護師と協力関係を築いて情報を得ている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人や家族の意思を尊重しながらかかりつけ医に看護師と連携し方針に沿った支援を行うようにしている。	作成した看取り介護に関する指針に沿って、終末期の処置等の希望、意向を確認する書面を整備して。入居時に家族に説明し、書面を取り交わし、今後に向けての支援体制が出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがありそれに沿って学習している。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網や避難訓練マニュアルに沿って学習している。同一敷地内にある系列の法人施設に協力を依頼している。	夜間を想定し、入居者を避難させたり、水消火器を使った訓練を実施している。緊急通報システムを設置し、地域区長や隣接する高齢者施設職員に協力を要請する仕組みを作っている。また、食料品等は隣接する法人厨房で備蓄している。	地域との協力体制づくりとして、運営推進会議の開催日に消防署の協力を得て、避難訓練の実施をされてはいかがでしょうか。また、備蓄台帳の整備をお願いします。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人の生活歴や性格に合わせた声掛けを行っている。入室の際は声掛けをしている。記録等個人情報を個人個人ファイルで作成、決まった場所に保管している。	入居者の状況に合わせた声掛けや対応が行われている。下着を汚した入居者の羞恥心を考慮しながら、洗濯物として出せる工夫をしている。また、調査員が入居者の居室を訪室する際は、管理者がその場で当該入居者の同意を得ている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自己決定できるように、場面づくりの提供に心掛けているが、職員中心になりかねない項目であるため、今後も気を付けていきたい。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員ペースにならないよう、尚一層気を付け、個々のペースに合わせたケアを目指していきたい。本人家族の希望に沿って面会時間、外出、外泊も自由で制限していない。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝起床時には鏡に向かう時間を作っている。お化粧品、化粧品と準備されている利用者には行ってもらう、着替えも本人と相談しながら行っている。月一回、ボランティアによる散髪があり、希望される方は利用している。おしゃれ染めを希望される方は、美容室の協力で行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節のものを取り入れ、香、味と感じていただき、おやつをいっしょに作っている。普段の会話から食べたいものを聞きだし、取り入れる様にしている。	咀嚼や嚥下に配慮し、楽しみながら発語体操を実施している。法人厨房から食事が提供され、個々の摂取状態に合わせて軟飯・粥・きざみ副菜等配慮されている。季節のさくらやヨモギ餅づくりを楽しんでいる。検食する職員もいるが、持参した弁当を食べながら、職員は見守りや声掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態に合わせ、栄養士の作った食事を提供している。食事中的見守り、声掛け、介助を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声掛けにて見守りで歯磨き、義歯洗浄を行う。自分で出来ない方は、介助にて磨き直し、義歯洗浄やうがいを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	その人の排泄状態、パターンを把握し、声掛け、誘導を行っている。	排尿パターンを把握し、膀胱訓練をしたり、洗濯物たたみ等で気をそらし、排尿間隔が長くなり、排尿回数が減った入居者もいる。又、失禁して落ち込む入居者もあり、羞恥心に配慮した声掛けや支援をしている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝の体操や、散歩、水分摂取にも心掛け、出来るだけ便秘にならないよう、医師にも相談しながら支援している。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	利用者の希望に沿って基本的に二日に一回の入浴を実施している。入浴を拒否する利用者には声掛け、時間帯の調整、足浴等、工夫して入浴支援している。シャワー浴は状態によりいつでも使用可能な状態にしている。	ゆったりとした浴室には、3方から介助できる個浴槽やシャワーチェアを設置している。同性介助の希望に配慮したり、浴槽に浸かっていたきたいと職員2人体制で支援したりしている。職員と入居者がゆっくり話す時間でもあり、楽しみにされている入居者が多い。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一日の生活リズムはほぼ確立されているが眠れない方は、職員がそばにつき、お話したりと対応している。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人かかりつけ医より服薬について支持をもらい服薬の管理を行っている。薬の変更時には各利用者の介護記録に記入、朝礼、終礼時にも伝え、変化の観察、確認に努めている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の能力に応じて、日常生活の中から、役割分担が自然に出来上がっている。レクを楽しむ人、おしゃべりを楽しむ人、散歩を楽しむ人、それぞれ楽しみを継続している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごと、お花見等ドライブで気分転換を図っている。買い物を行いたいと希望ある方にはお連れしている。家族の面会時には外出へのお誘いをしている。	外出を気分転換と捉え、年間外出計画を作成している。隣接するデイサービスの利用者と花見に出かけ、バーベキューを楽しんだりしている。車イス入居者も移動がしやすい地域の大型ショッピングセンターに出かけ、買い物や外食を楽しんだりしている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人の希望と状況により、本人が管理している方もいる。また、買い物の希望によっては、職員と一緒に買い物にでかける方や、職員が個人の買い物をする場合もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書いて出されることはほとんどないが、電話の取次ぎ等行っている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用スペースには季節に応じた花や写真を飾っている。空気調和設備(天井扇ユーリングファン)を整え、空気の流れを作っている。	紫陽花が入口の庭に植えられ、植木鉢が玄関入口や共有空間の机に飾られ、入居者とともに季節の花を楽しんでいる。明るく開放的な吹き抜けの天井の共用空間は中央に机やイス、窓際にソファが設置されている。車イスが対応できる広いトイレが2ヶ所、浴室の一角にもトイレが設置されている。空気清浄器を設置し、心地よい空間づくりがある。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人の居室には自由に行き来できるようにしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	これまで使われていた生活用品や好みの物、写真等を居室に置き、本人が心地よく過ごせるようにしている。	居室入口は氏名が掲示され、入居者手作りの鯉のぼりを飾っている。居室間違い防止のため、ドアの取っ手にぬいぐるみがかけてある居室もある。筆筒や日用品が持ち込まれ、既設のクローゼットには収納品が見えやすく整理しやすい棚が設けられている。家族などの写真が飾られ、温かな雰囲気である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや入浴、出来る限り自分で出来る様に施設内の環境に努めて自立心をなくさず、安全かつ安心して生活が出来る様に努める。廊下には手すりを設置して安心して歩行できるようにしている。		